

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490800253		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケアパートナー森伸明野		
所在地	三重県伊勢市小俣町明野1324-1		
自己評価作成日	平成 30年 2月 11日	評価結果市町提出日	平成30年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490800253-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490800253-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30年 3月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・あたたかい雰囲気です。一人一人と関わりを多く持ち、出来る限り不安な生活を目指しています。  
 ・ご入居者の意思と思いを大切にされた支援を行っています。  
 ・ご家族等の希望を踏まえ、可能な限りのターミナルケアを実施していきます。  
 ・自立支援に向け出来ない所を、声掛け・見守り・介助をさせて頂いています。  
 ・できる限りご入居者及びご家族の意思を尊重させて頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

築2年に満たない機能的でコンパクトに作られている生活し易い仕様になっている事業所である。会社の方針であると思うが職員に優しい対応が見える事業所である。人手不足で大変であっても職員の適時適応配置が行われており、Wワーカーや派遣職員でも安心して働いているのが拝察できる。今年、出産予定の職員からは、会社からのサポートで安心して出産まで働いていけるという発言がある。従業員が安心して働いている事は、利用者へ接する時にも余裕を持って接する事になり笑顔で日々過ごすことに繋がっている。職員は入社時に毎日大きな声で「おはよう」と挨拶することを心掛けており、利用者皆が笑顔で迎える瞬間になっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員研修・責任者との個人面談、先輩から後輩への指導を行い、それを実践できるように考えています。	創業時に代表者が決めた「一人の人を大切に」が法人グループ一貫の理念である。その理念を実践するために管理者研修があり、各自1ヵ月ごとの目標を出して実践することになっている。コミュニケーションを重視しており、職員の声かけが優しい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣散歩時のご挨拶や、イベント時ご案内、施設便りの配布などで、施設やご入居者・職員と交流を持たせて頂いています。	散歩で出会う事業所の周りの住民に、挨拶の声掛けはしている。ボランティアや高校の実習生を受け入れている。しかし、地域との日常的な交流が無いため防災訓練の参加や廃品回収への協力の意思があるが、未だに参加できていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明野高校福祉課 実習生を受け入れ、認知症への理解を深めてもらっています。近隣の方の館内見学を推進しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月の開設から、運営推進会議を開催し、地域包括・町内住民・入居者ご家族・医療連携機関・介護相談員などの方に参加頂き意見交換を行っています。	2ヶ月に1回開催しており、外部参加者として包括支援センター職員と介護相談員の参加がある。しかし、行政と地域住民の参加がないので行事などの地域情報が無く、サービス向上に活かす機会が不足している。毎回、ヒヤリ・ハットを報告しているわけではないので参加者に誤解を生み易い。	地域住民の参加により地域情報の活発な情報収集にも繋がるので、もっと地域住民の参加を期待する。また、地域住民への有力情報発信で集客して欲しい。ヒヤリ・ハットも毎回、正確な数字と内容を発表する努力が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の方も参加して頂き、行政の取り組みを伺い、ご入居者の状況を伝え、ご家族とのコミュニケーションの場にも参加して頂き話し合いを行っています。	代表者が主に行政と連絡を密に取り、協力関係を築いている。代表者が知り得た種々の加算を管理者が教えて貰う事もある。空室情報を聞かれることもあり伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修・部署会議で職員が統一事項として理解し、言葉の拘束・身体的拘束などをしていない対応を行っています。出入口は可能な限り施錠はせず対応しています。	今まで拘束したことは無く、玄関は常時開放されており出入りは自由である。玄関に取り付けたカメラで職員は居間にあるモニターから玄関の出入りを確認しており、安全に配慮している。言葉の指導はユニット会議で行っており、社内研修でも拘束について行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修・部署会議で職員が統一事項として理解し、虐待につながる行為のない対応を行っています。身体的なことに関しては、入浴時や着交時に全身観察を行い傷や内出血の有無の観察を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修・部署会議で職員が統一事項として理解し学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を見て頂きながらご説明し、不安の軽減に努め理解・納得を深めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のご家族の言葉を大切に、上司に相談・報告し、よくなる方向へ向かっていけるよう話し合い実行しています。運営推進会議にご家族も参加して頂きご意見を伺っており、苦情相談窓口も設置しています。	担当者制を取っているが、面会時に管理者が直接家族から意見や要望を聞く機会を設けており、運営に反映させている。軽いストレッチを行って欲しいという意見があり、10時と15時にNHKで放送している体操をするようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や部署会議で責任者と職員の意見交換を行っています。管理者と職員は意見の言いやすい雰囲気作りにも努めています。	利用者全員に関する意見はユニット会議で意見交換しており、利用者個別に関する事は申し送りで行っている。お膳の出す順番を変えてみたり、洗濯時に服のポケットにティッシュが入っていないか確認するようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者研修、職務申告書、リーダー研修、介護実務者研修等の講習を取り入れ、向上心を持って働ける環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で統一した考えや技術を習得できる仕組みがあります。職員は研修に参加し、自身のレベルアップにつなげ内容を部署会議で発表し伝えていきます。管理者は管理者研修を講習し、働きやすい環境作り・指導方法を学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し他事業者と交流する機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が寂しさや不安を持たれないように面談時などにお話を傾聴し、ご本人の不安・困りごと・希望などを伺い話し合いを持つようになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人含め話し合いを持ち、困っている事や要望を引き出し解決の糸口を見つけ、入居前に納得して頂けるよう努めています。事前に施設見学をして頂き入居希望を聴かせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、ご本人・ご家族の要望を伺い、困っている事・問題点を確認し適したサービスの提案を行っています。ご利用者の状況を見、他施設の紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の状態に応じ、洗濯干し・洗濯たみ、おやつ作り・掃除などを手伝って頂き、互いに協力しあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時に、ご入居者の日常の様子を伝えたり、ご入居者のご家族への思いを職員も共に大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力により、月1回行きつけの温泉や墓参り、外食などに行かれています。馴染みの場所の話をさせて頂く事で意欲を引き出し、今後も良い環境が築けるように支援しています。	職員不足から職員が馴染みの人や場所に連れて行くことは難しいので、家族の協力で昔から行きつけの温泉や美容院に行っている。病気で入院された配偶者の面会に、家族が連れて行ったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を把握し、席の移動を行ったり、職員が間に入り関わりを持って頂いてます。ご入居者同士と一緒に洗濯物を干して下さったり懐かしの歌を唄ったり、塗り絵をされたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退去されたご入居者やご家族から再入居の希望があり、密な連携をとりながら支援を行っています。また相談された事には快く情報の提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしい生活を大切に、起床時間・食事など今までの生活ペースにあわせた対応を行っています。会話の中から気持ちをくみ取り対応出来るように努めています。	ほとんどの利用者が介護度1か2なのでコミュニケーションが取り難いことは無いが、高い介護度の利用者が難しく、職員は答えやすい声掛けをその都度している。また、1日の自分なりの時間行動が決まっているので、なるべくそれを崩さないように配慮し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談やアセスメントで、現在までの環境などを伺っています。馴染みの家具や置物・食器などを生活の中に取り入れています。自宅と変わらない環境作りとご本人の生活暦を大切にしたい対応に努めさせて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の過ごし方を、職員間で連携を取り、心と体の状況など変化がある時は職員全員が共有出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人お一人がより良い生活をして頂けるように、ご家族からお話を伺ったり、職員同士のミーティングで話し合いをし、介護計画を作成しています。	担当者制で普段のモニタリングをしており、職員として働いているケアマネジャーが計画作成担当者として介護計画を作成している。また、課題分析表を基に、担当職員・家族の意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録などに、ご入居者の日々の様子や普段と違う行動や言動があった際は記録に残すと共に、口頭でも伝達し職員間の情報共有を行っています。またこれらの情報をモニタリング・介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の往診時になるべく多くの情報を伝えたり得たりしています。ご家族のご協力もあり、外出や外食など、可能な限りの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で暮らして頂き、気候の良い時は近隣散歩に出かけています。その際は近隣の方と挨拶を交わし良い関係が築けるよう努めています。定期的に地域のボランティアが来館し交流をはかっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医とナースが密に連携を行っており、往診以外にも必要時は適切な病院への受診を行っています。	協力医が月2回定期健診に来所している。普段は自社の他グループホームと兼務している看護師に質問や相談をしており、緊急時には協力医に連絡を取って職員が利用者と外来受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定・体調変化があれば看護師に報告し必要時は受診を行っています。入浴時の全身観察や日々の関わりで表情や身体の変化に気付いた時は、看護師に連絡し支持をおおぎ適切な対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院時には双方の症状などの情報交換に努め、入院先・退院後の対応がスムーズに行えるように連携を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化のたびご家族と話し合いを行ったり、面会時にお話を伺っています。状態変化のたび、提携医・ご家族・責任者で今後について話し合いを持っています。	重度化した時には家族と話し合いの上、その都度対応している。終末期に現在の状況で看取りを出る体制にはなっていないので、転院か救急搬送になる。今後は正式に看取り加算を申請して、医師・看護師の協力と職員の対応で可能になるようにするか検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修・社内研修・部署会議を通して、急変時や事故発生時の際の対応を身につけています。またユニットにマニュアルを備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	津波・地震・火災を想定した避難訓練や、119番通報訓練を行っています。社内独自の安否確認メール訓練により災害時の対応が出来るようにしています。	水が3日分と食材は3ヵ月分冷凍保存されている。備蓄に関して心配ないが、職員が災害時に行うべきマニュアルが確保されておらず、いざという時に誰でも災害別に同じ行動が取れるようになってない。	地震や火事、水害などに対応するマニュアルが無いと夜勤で1人対応時にも支障が出ると思われる。そのマニュアルを一目で見て対応出来ることは人命救済に大きな違いが出るので、早急に災害別マニュアル作りを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の気持ちを大切に、ご本人の同意を得、気持ち良く過ごして頂けるように工夫しています。	トイレ誘導時や、職員が居室へ入る時の声掛けに特に配慮している。着替えは自室で行うことや、トイレ使用時の戸をしっかりと閉めることなどもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の希望や会話の中からくみ取った事を可能な限り支援しています。入浴希望や外出などはご本人が意思決定をして頂ける様な声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のお話を伺い希望にそった支援を行えるようにしています。食事・着替え・就寝時間など、ご自身のペースで行って頂き、希望により外食・外出支援が出来る環境を整えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当日の天気や日付を伝え季節に応じた衣類をご自身で選んで頂ける様な声かけを行っています。洗面時には化粧水などをつけられたり、お化粧をされたりと、おしゃれを楽しんでみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日やイベント等は、ご本人の好物をメニューに取り入れています。日常はテーブル拭き・食器拭き・米とぎ等をして頂き、ご入居者様と職員が協力をしています。	配食センターから週2回配達される冷凍料理を解凍し(主に熱湯で)、職員が作ったご飯と味噌汁と提供している。行事食として一人ひとり弁当箱に入った御節も正月に配達がある。誕生日やお雛様祭りには職員がバースデーケーキと伊勢うどんやチラシ寿司などを提供して喜ばれている。利用者とおやつを一緒に買いに行く事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量・水分量は記録に残しています。朝食後やおやつには好みの飲み物を提供し、嚥下の状態に応じ紅茶ゼリーにし摂取して頂くなどの工夫をしています。又、習慣でもあるヤクルトを毎朝飲まれている方もみえます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者が口腔ケアをされた後、磨き残しがないか確認し必要時にお手伝いさせていただきます。提携歯科による口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をいかし排泄パターンを把握するように努めています。その日の気候や水分量に応じトイレの声かけや誘導を行っています。排泄時の記録から誘導や声かけの時間を見直しています。	布パンツとリハビリパンツが半々である。排泄チェック表で誘導しているが、3時間以上空けないように決めている。自立度が高い利用者が多いが、今後に掛けて自立度が下がった時の対応も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂取して頂くよう寒天ゼリーをお出ししたり廊下の歩き運動や腹部マッサージを行い自然排便を促しています。提携医とナースが連携し必要時は薬を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の体調を考慮しながら希望にそった入浴をして頂いています。好みに応じた入浴剤の使用や温度調節などを行っています。	1週間に2回、午前と午後1日3人入浴しており、その都度お湯は交換している。スズランやラベンダーの香りの入浴剤を使用しているが、柚子湯や菖蒲湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体力や疲れ、昨夜の様子なども考慮し、就寝時間やお昼寝をして頂けるような環境を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を使用しています。その人にあつた服薬時の声かけをし、決められた服薬手順を守り、服薬ミスや飲み忘れがないように努めています。薬の変更時などは4検を行い、状態の変化に気づけるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的なボランティアの訪問やご入居者の趣味の継続が出来る支援を行っています。日課以外に趣味や興味のある事を引き出す声かけを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ね、洗濯物干しや日光浴を中庭で行ったり、近隣散歩をしています。また、中庭で野菜や花作りを楽しまれています。日常会話の中で行きたい所があれば希望に添えるように検討し支援しています。	近所の散歩は職員同伴で日常的に行えている。遠出は職員不足から対応出来ない状況があるが、家族に対応してもらおう事で外食や温泉に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご自身で管理されることなく施設でお預りしています。職員と外出時は、ご自身で商品を選び・支払いをして頂ける様に支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出されたり、ご家族の面会時に他のお身内と電話で会話されたりしています。遠方のご家族からは手紙や電話を頂くと共に会話を楽しまれています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の園芸をして頂いたり、心地よく過ごして頂けるように工夫しています。壁には季節の飾りつけ、中庭は季節に応じた野菜作り、リビングや玄関に季節の生花飾り、季節感を感じて頂けるユニットにしています。	今年の春で築2年になる。きれいでコンパクトな作りで広すぎず、狭すぎない共用空間となっている。トイレも3箇所あり内1つが車椅子対応となっている。日差しが良く入る居間兼食堂で、職員が利用者と対応しても玄関の出入りが分かる大きなモニター画面がそこに設置されており、安全、安心感がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭が見える場所にソファを置かせて頂き、会話や趣味のスペースとして利用頂いています。陽のあたる所に椅子を移動し新聞を読まれたり、起床時に窓から日の出を見られたり、隣家の愛犬を見られています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物(箸・茶碗・タンスなど)や思い出のある物をお持ち頂き新しい環境の中でも心地よく過ごし、居心地の良い空間を提供し早く馴染んで頂けるように工夫しています。	清潔に保たれている居室は広すぎず狭すぎない広さである。大きなクローゼットが備えられており、中はハンガーと小箆箭あり整理し易くなっている。利用者は馴染みの物を持ち込み自由に過ごしている。ドアの表札は写真入りで親しみ易くなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に中庭へ出入りをされ花の水やりをされてみえます。じょうろ・掃除道具などの置き場も把握されており、安全を確保しつつ自立した生活が継続できる支援を行っています。			